

© 企業経営理論

【総評】

令和7年度の本試験は、量の面から見ると設問数は41設問と前年度と同数である。前年度までと比べ、解答の判断が難しい問題もあったが、全体としては例年並みの難易度であったと思われる。

難易度を決める要因の一つとして、選択肢の数があるが、4肢択一と5肢択一の問題を比較すると後者の方が難易度は上がる。今年度の出題状況を見ると、4肢択一と5肢択一の設問の比率が10対31になっており、前年度の15対26よりも5肢択一の出題数が増加している。よって、難易度は下がっていないと思われる。

出題の分野別内訳をみると、戦略論が13設問（第1問～第13問）、組織論が14設問（第14問～第27問）、マーケティング論が14設問（第28問～第39問）であった。近年の出題傾向と比較しても、出題の分野別内訳はほとんど変化していない。

分野ごとに見ていくと、戦略論は、5肢択一の設問が12問（前年度11問）である。第2問（アンゾフの成長マトリクス）、第3問（VRIOフレームワーク）、第7問（業界の構造分析）、などで得点したい。

組織論は、5肢択一の設問が10問（前年度7問）であった。第24問～第27問までの有期雇用労働者、ストレスチェック、パワーハラスメント、変形労働時間制に関する問題では、時事的な要素を含む出題もみられ、その対策の有無で対応は分かれたと思われる。第20問（リーダーシップ理論）、第23問（組織変革）などの問題で得点したい。

マーケティング論は、5肢択一の設問が9問（前年度8問）である。一部、運営管理や経営情報システムで学習する内容も問われていた。第32問（環境分析）、第33問（プッシュ戦略とプル戦略）などで得点したい。その他、マーケティングに関する専門用語が問題の随所に見られたため、これらを正しく把握できていたかどうかで、得点に影響があったものと思われる。

以上